



## 埼玉県のCSF対策

令和元年9月13日に秩父市の養豚場でCSF（豚熱・旧病名：豚コレラ）が発生し、その後、11月9日までに2市2町の5農場でCSFが発生しました。発生農場では県、市町及びJA等関係団体の連携のもと、速やかな防疫対応が行われました。現在、埼玉県では、CSF発生予防のため、飼育豚に対してCSFの予防的ワクチン接種を実施するとともに、野生いのししのCSF感染対策を実施しています。そこで今回、これらCSF対策の状況についてお知らせします。

## CSF予防的ワクチン接種

埼玉県では、CSFの予防的ワクチン接種を令和元年11月1日から開始し、令和2年1月22日まで県内の豚等飼養施設全125か所、77,751頭の初回接種が完了しました。初回接種以降、新たに生まれてくる子豚には、生後

1か月～2か月で接種するほか、初回接種を終えた親豚は、接種後6か月を目安に2回目の接種を終えています。また、ワクチンを接種していない導入豚は、導入時に接種を行っています。接種は、家畜保健衛生所の職員（家畜防疫員）が行っています。令和元年11月から令和2年7月までの県内のワクチン接種実績は、次の表1のとおりです。

表1 CSFワクチン接種実績

家畜保健衛生所名	接種頭数
中央	8,059
川越	27,455
熊谷	162,396
合計	197,910

子豚へのワクチン接種



また、ワクチン接種と並行してワクチンの効果を検証するため、

## 野生いのししのCSF対策

接種農場において年2回の免疫付与状況の確認検査（抗体検査）を実施しています。令和元年12月から令和2年6月末までに県内養豚場の豚約3,000頭で検査を実施したところ、CSFの感染を防御できる目安である、抗体保有率80%を上回る結果が得られています。

## ◆サーベイランス強化◆

平成30年9月に岐阜県でCSF

表2 野生いのししCSF検査結果（PCR検査）

地域	検査頭数	陽性頭数	陽性率
秩父郡	411	61	14.8%
児玉郡	24	8	33.3%
大里郡	99	13	13.1%
比企郡	181	8	4.4%
入間郡	197	13	6.6%
合計	912	103	11.3%

## ◆経口ワクチン散布◆

が発生したことから、全国で死亡野生いのししのサーベイランス（PCR検査及び抗体検査）が実施されており、埼玉県でも県内でCSFが発生したため、野生いのししの捕獲強化と捕獲したいのししについてもサーベイランスを実施しています。令和2年7月末までの検査結果は表2のとおりです。

野生いのししに対する経口ワクチン散布は、日本で初めての取組みであることから、国の主導により実施しています。埼玉県では国と連携し、令和元年11月から翌年1月にかけて、県内6市町40か所で800個の緊急散布を実施しています。また、その後の継続的な経口ワクチン散布体制を確保するため、令和2年1月に市町村や猟友会が参加する埼玉県CSF感染拡大防止対策協議会が設立されました。同協議会により、令和2年2月には、12市町53か所1520個の経口ワクチンが散布され、令和2年度についても、20市町で約8,000個の散布が計画されています。